平成27年度 学校評価書

H28. 2. 23 現在

山形県立村山特別支援学校 山形校

学校教育目標：かかわりの力を育てる めざす子ども像：自分が置かれている場面に応じた行動をとることができる人

【評価】保護者による評価 A：3点 B：2点 C：1点 D：0点として点数の合計による評価（質問項目ごと保護者最大24点）※保護者8名
 教員による評価 A：21点 B：14点 C：7点 D：0点とする（(1) (2)それぞれ教員最大21点）※保護者と同じ点数×7名
 達成度 A 達成できた（8割以上） B ほぼ達成できた（6～7割） C あまり達成できなかった（4～5割） D 達成できなかった（3割以下）

No	項目	今年度の重点	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度	課題（○）及び改善策（→）
1	楽しい学校 早く登校したくなる	(1)外部講師の助言等を受ける機会を設けるなど、計画的に授業研究に取り組み、授業づくりの専門性を高めます。	・外部講師を招く機会を含む4回程度の授業研究会を計画・実施し、MTを中心にしながら全員で授業づくりに取り組む。	・年間計画に基づき計4回の授業研究会を行った。うち1回は外部講師を招き五小や天童校教員も参加して実施することができた。	A	【専門性の向上】<研修部> ○研究授業が全て生単（調理）で、幅広く専門性を高めるという点では不十分だった。 →幅広い実践を計画的に進めるとともに、学部研等でのOJTを推進する。
		(2)山形校と山五小との連携のもと、年度当初から具体的計画を検討し、実態に応じた交流及び共同学習を実施します。	・年度当初の二校連絡会で年間計画を提示し、互いに見通しを持って進められるようにする。 ・昨年度以上に直接的なかかわりのある交流活動を実施し、二校連絡会等で互いの評価を確認する。	・授業づくりの話し合いを通して教員一人一人の実践力が高まり、日々の授業に生かされることで子どもの成長につながっている。 ・年度当初から計画的に進めたことで、生活単元学習「元気っ子祭り」で山五小低学年児童と直接かかわる交流及び共同学習を実施することができた。 ・学期ごとの読み聞かせも含めて、昨年度以上に両校の児童が楽しく活動し、お互いの理解を深める交流だったことを二校連絡会等で確認することができた。		
		教(1)14 (2)21 保1（子どもの成長 21） 2（子どもに合った指導 21） 3（山五小、本校との交流 22）		計99点/満点114点 87%		
2	安全な学校 安心してまかせられる	(1)避難訓練や事故防止のための研修会を合同で実施するなど、山五小と連携した安全管理体制を推進します。	・二校連絡会や担当間で情報交換や連絡調整を密にし、共通理解のもとで避難訓練や研修会を実施できるようにする。	・昨年度同様、二校連絡会や担当間の連絡調整のもと計画的に合同避難訓練等を実施することができた。	B	【安全指導の充実】<保健体育部> ○児童の実態に合った山形校の避難訓練の指導を再検討する必要がある。 →担当が児童の実態や目標を踏まえた山形校の計画を提案し、学部会で十分共通理解するとともに、必要に応じて山五小と調整を図ることで、より充実した避難訓練につなげる。
		(2)教職員全員によるヒヤリハット事例の記録と共有化を継続し、日常的な事故防止に努めます。	・担当が日常的に事例提供を呼び掛けるとともに、即時の対応と共有化を図り、事故等のない安全な環境を整える。	・山五小の計画による避難訓練に参加する中でも、児童の実態に合った山形校ならではの指導を考えていく必要がある。 ・ヒヤリハット事例について終礼や職員会議で全職員が共通理解したことで、大きな事故やケガなく過ごすことができた。 ・ヒヤリハットに気づいてもその場の職員で確認するにとどまり、全体化されないことがあった。		
		教(1)14 (2)14 保4（安全・安心 23）		計51点/満点66点 77%		
3	頼りになる学校 相談や支援を受けられる	(1)保護者や関係機関との連携を密にし、生活・学習・進路等における適切な支援ができるようにします。	・連絡帳や登下校時の丁寧なやりとりを通して児童の状況を把握し、適切な支援を行う。 ・本校中学部と連携し、進路に関わる情報を共有することで、保護者との連携や指導に生かす。	・登下校時や連絡帳等での日常的やりとり、おたよりや個別面談、学校保健委員会等の定期的な取り組みを通して保護者と連携し、学習や生活面の支援につなげることができた。	A	【ヒヤリハットの取り組み】<保健体育部> ○どんな小さなことでも全体で確認する意識がまだ十分ではない。 →できるだけ多くヒヤリハットを出し合うことの重要性を再確認するとともに、終礼等で必ず話題にしておく。
		(2)各種作品展への出展や学校だよりの回覧、各種相談への対応等を通して、地域の特別支援学校としての情報発信やセンター的機能の発揮に努めます。	・毎月1回学校だよりを発行して地域に回覧するとともに、公民館文化祭や市作品展等に積極的に出展する。 ・地域からの特別支援教育に関わる要請に積極的に応えていく。	・進路研修会など全体での取組はできなかったが、個別面談で学年に応じて話題にしたことで中学部のイメージや卒業までに育てたい力等について保護者と共有できた。 ・学校だよりを毎月地域に回覧したり、南部・東部公民館文化祭に作品を出展したりすることを通して、地域の方々に情報発信することができた。 ・山形市教委の教育支援相談や市内小学校の授業研支援等の依頼に積極的に応じることで、地域のセンター的機能の役割を果たすことができた。		
		教(1)21 (2)21 保5（担任との連絡 24） 6（地域への発信 23）		計89点/満点90点 99%		
4	やりがいのある学校 働きやすい	(1)教育活動を円滑かつ効果的に行うため、学部会を核として各学年や各分掌の情報交換を行い、教職員全体で児童を支援する体制を作ります。	・全員で話し合う学部会を週2回設定し、児童や授業、各分掌部に関わる内容について十分に共通理解を図るようにする。	・管理職以外の教員全員による学部会を核とした運営組織により、教員間の十分な共通理解や計画の練り合いが図られ、よりよい教育活動の実施につながった。 ・年度途中から学年や担当段階での授業検討の場として「学年会」を設けたことで、学部会での話し合いが少しずつ効率的に進むようになってきた。	A	【学部会のさらなる効率化】<教務部・小主任> ○事前の検討不足のため、学部会が長時間になることがまだある。 →周囲の意見等を参考にしながら、学級や「学年会」で十分検討した案を学部会で共通理解できるようにする。
		(2)山五小との連携を密にし、お互いの共通理解のもと、共有施設等を有効に活用して分校経営に当たります。	・月2回程度二校連絡会を実施し、様々な情報の共有や指導・支援の共通理解を図ることで、山形校の教育活動を推進する。	・昨年度同様、二校連絡会や担当間の連絡調整により、授業に必要な場所・物品等をタイムリーに貸していただき、計画した学習活動を支障なく実施することができた。		
		教(1)21 (2)21		計42点/満点42点 100%		